

「バンクーバーとその周辺における近年の人口動向－住宅地の変化を絡めて－」

香川貴（京都教育大学）

「母子世帯の就業と住宅状況の地域的差異」

由井義通（広島大学）

「女性のローカル・ライフコース－地方圏出身者の場合－」

神谷浩夫（金沢大学）・中澤高志（学振PD）

「女性のローカル・ライフコース－大都市圏出身者の場合－」

中澤高志（学振PD）・神谷浩夫（金沢大学）

「1990年代の東京区部における人口変動－国勢調査小地域集計結果の分析から－」

宮澤仁（東北大学）・多田寿人（東北大学・院）・阿部隆（日本女子大学）

（山内昌和記）

ハワイ大学東西センター・総務省統計局共催 「21世紀人口センサス会議」

2003年11月19日（水）～21日（金）、京都国際会議場において、ハワイ大学東西センターと総務省統計局の共催による「21世紀人口センサス会議」が開催された。この会議に先立って（11月17日～18日に）同じ会議場で第10回東アジア統計局長会議が開かれ、そこでは人口センサスの実施ならびにデータ管理・利用方法が議論された。その参加者の多くと別途招待された専門家を含めて人口センサスの中味を議論したのが21世紀人口センサス会議である。プログラムは下記の通り。

セッション1. 開会式

- | | |
|------------------|---|
| 2. センサス報告Ⅰ | 7. センサス報告Ⅳ（人口高齢化） |
| 3. センサス報告Ⅱ | 8. パネル・ディスカッション（人口センサスの
人口・社会政策への利用） |
| 4. 人口推計 | 9. 国際的問題 |
| 5. ソフトウェアと技術関連問題 | 10. 全体会議 |
| 6. センサス報告Ⅲ | |

センサス報告のセッションでは、アジア・米国の17カ国からセンサス結果の多様な面についての報告があった（日本については、2000年センサスの精度の問題、学歴別出生率の動向、パラサイト・シングル増大傾向の報告があった）。人口推計のセッションではマレーシア、インドネシア、米国、日本の4カ国が報告を行った（日本は小川直宏日本大学教授が日大人口推計の結果を報告）。国際的問題のセッションでは、アジア統計研修所、国連統計局、アジア開発銀行からの専門家が人口センサス・データの国際的レベルでの利用について報告した。パネル・ディスカッションでは、筆者が座長を務め、高橋重郷本研究所人口動向研究部長、ナンシー・ゴードン（米国センサス局）、リー・ジリュウ（中国国家統計局）、ジユン・リー（韓国国家統計局）の各氏が、各々の国において人口センサス結果が人口・社会政策にどのように利用されているかを報告し、それについての議論を行うとともに、日本の現状をふまえて、人口センサス・データの利用の拡大（特に個票データの利用拡大の可能性）についても議論が行われた。（阿藤 誠記）